

7-2 弥彦地殻変動観測所における傾斜観測 (1967-2013) Tilt Observation at Yahiko observatory(1967-2013)

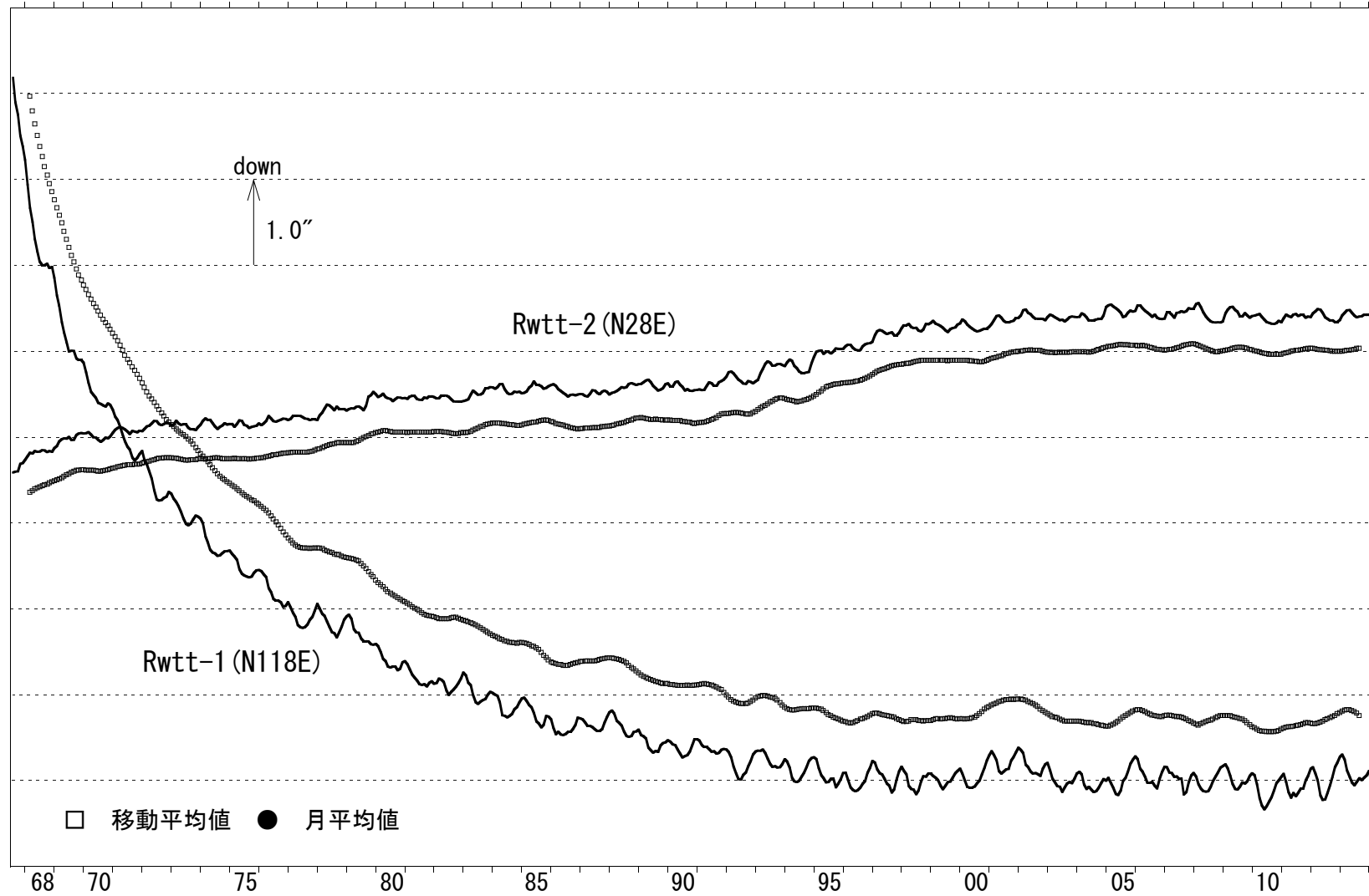
東京大学地震研究所, 観測開発基盤センター
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

弥彦地殻変動観測所においては1967年6月から地殻変動観測を行っている。前報⁽¹⁾に引き続き読取型水管傾斜計による観測結果について報告する。第1図に読取型水管傾斜計の月平均値とその12ヶ月移動平均値を示す。第2図には読取型水管傾斜計の移動平均値に基づく傾動ベクトル図を示す。観測当初より1990年頃まで掘削方向である北西方向への傾動が続き1991年頃から傾動方向が変化し掘削方向への小さな揺らぎを伴いながらの北方向への傾動となった。第3図に表示期間を拡大したベクトル図を示す。1998年頃より傾向が変わり、東西方向への大きな傾動の後、東西方向の傾動を伴いながらの停滞が続いている。

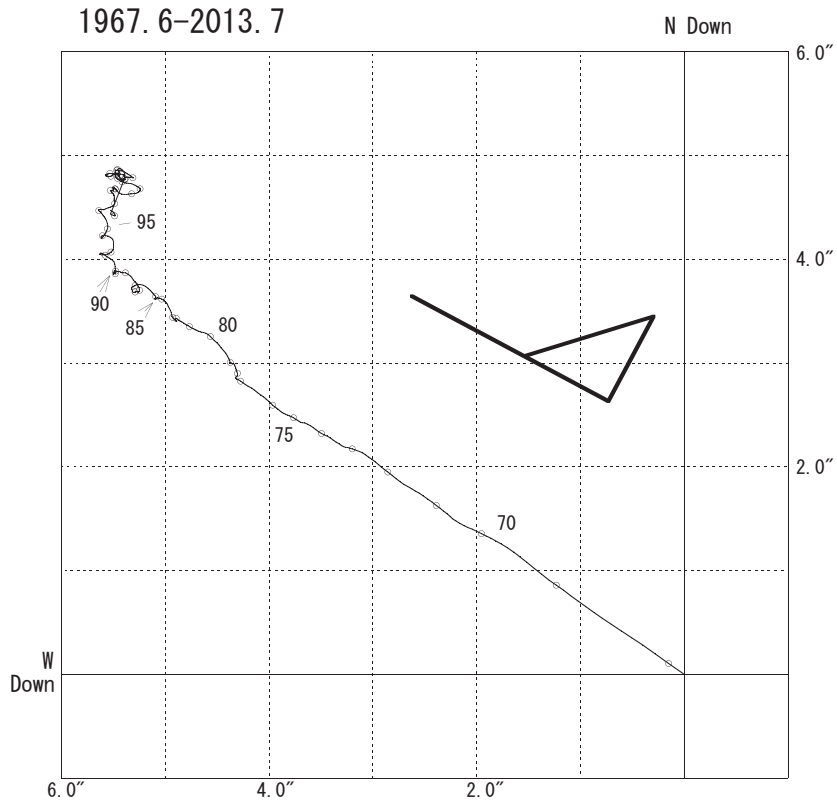
参考文献

1) 東京大学地震研究所：弥彦地殻変動観測所における傾斜観測 (1967-2012), 連絡会報 90 (2013年), 329-331.

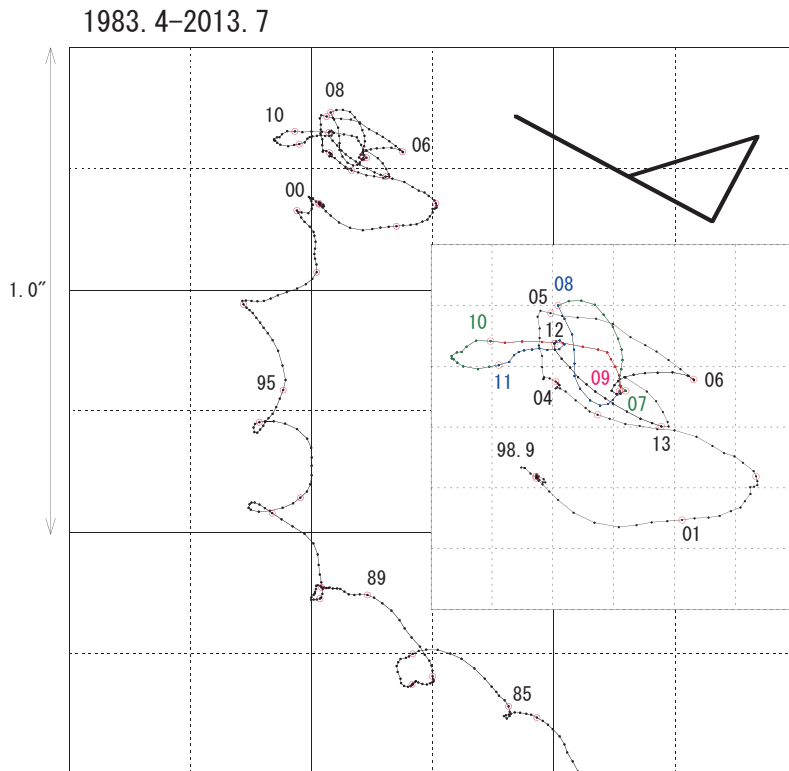
YHK 移動平均・月平均 1967.06-2012.13



第1図 読取型水管傾斜計による累積傾斜変化 (□=12ヶ月移動平均値・実線=月平均値)
Fig.1 Cumulative tilt change by reading type WTT(□=12month's running mean, solid line=monthly mean)



第 2 図 読取型水管傾斜計による永年傾動ベクトル (12 ヶ月移動平均値)
 Fig.2 Vectorial presentation of filtered secular change in the ground tilt



第 3 図 読取型水管傾斜計による永年傾動ベクトル (1983.4-2013.7)
 Fig.3 Vectorial presentation of filtered secular change in the ground tilt (1983.4-2013.7)